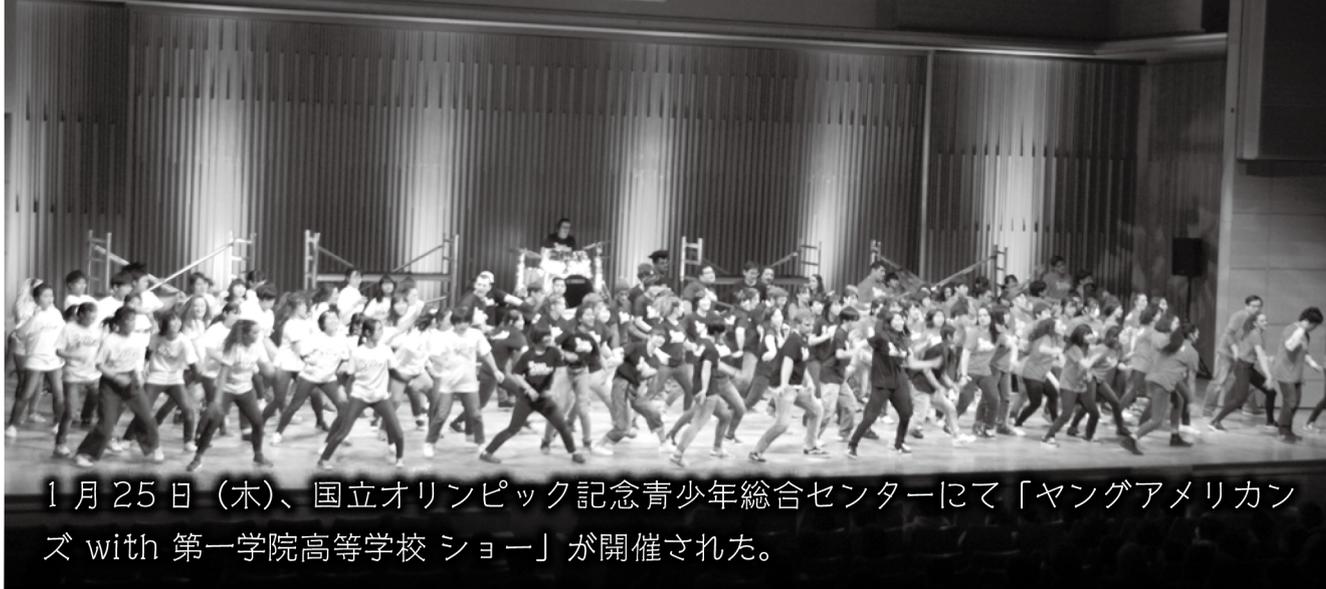


第一学院高等学校の生徒たちが『ヤングアメリカンズ』とショーを熱演



1月25日（木）、国立オリンピック記念青少年総合センターにて「ヤングアメリカンズ with 第一学院高等学校 ショー」が開催された。

音楽を通しての国際交流 自分のありのままを表現するワークショップ開催

『ヤングアメリカンズ』とは、音楽を通じた教育ワークショップを行うアメリカの非営利活動団体。さまざまな国籍の若者が世界中で音楽公演や、アウトリーチ（出張授業）を行っている。今回、第一学院高等学校の生徒は、2日間という短期間でヤングアメリカンズのキャストから歌やダンスを学び最終日3日目にはキャストと共にステージに立ち、ショーを披露した。

歌・ダンスの他にも、パントマイムや慣れない英語の歌詞に挑戦するなど、積極的にチャレンジした生徒たち。

ショーの中盤では、生徒が即興で自分たちの抱えている思いを伝える“ストーリーのシェア”が行われた。ある生徒は、部活・友人関係などで悩みを抱えていた際、両親や周囲の人たちが第一学院高等学校を勧めてくれたエピソードを話し、今までよりもたくさんの人に感謝の気持ちをもつようになったと伝えた。

最初は緊張気味だった生徒の顔も、ショーが進むにつれ笑顔が増え、楽しみながら発表をしている様子が見え始めた。

また、第一学院高等学校の職員もヤングアメリカンズのワークショップに参加。生徒と共に2日間の練習と最終日3日目のショーに挑んだ。

大歓声のなか、ショーはフィナーレをむかえ、最後に出演者たちは観客とハイタッチで退場。

終演後に第一高等学院秋田キャンパスから参加したという生徒に今日のショーについて聞くと、「私は出演するのが2回目なんですけど、前回とは違う振り付けを教わるので、最初は不安がありました。だけど最後には「楽しもう！」という気持ちでやりきりました。」と晴れやかな顔で話してくれた。



キャストと生徒が一緒になって大合唱



ショーが進むにつれ、笑顔が増えていく出演者たち